

地域と学校が一つとなって田植え交流

JA青壮年部が中心となり、学校、保護者、地域が一つになって取り組んでいます。

青壮年部泗水支部は6月21日、食農教育の一環で泗水西小学校の田植えに協力。全校児童61人が参加しました。田植えの後、恒例となっている「魚のつかみ取り」や「どろんこフラッグ」で盛り上がりました。つかみ取りの魚は、西小校区（田島集落）の青壮年部員が早朝から合志川で捕まえて準備。児童らは50センチ以上の大きなコイを泥んこになりながら追いかけて楽しみました。捕まえた魚は元気なうちに川に戻しました。今年は、菊池市が取り組む域学連携（地域と学校の連携で行う学習活動）も加わり、県立菊池農業高等学校の生徒と県立大学の学生25人も参加し、児童らと交流を深めました。



企業社員と田植え体験交流会

半導体製造企業であるJASMとの田植え交流会を6月14日、菊陽町で行いました。昨年に続き2回目。JASMスタッフ、JA、行政が協力して開きました。

JASMの堀田祐一社長、JA菊池東哲哉組合長、JASM社員やその家族60人が参加。菊陽中央支所職員、青壮年部員らが田植え準備や指導を行い、菊陽町産業振興部商工振興課も協力。約10アールの田んぼで、ヒノヒカリの苗を植えました。あいにくの雨模様となり、体験は少しの時間でしたが、親子での参加もあり、田んぼの泥や水の触感を楽しみながら体験。笑顔での交流ができました。

田植えの前に堀田社長は「会社では多くの水を使用しています。田植え体験を通して、冬の田んぼの水張りなど、水の涵養を学び、農家の方と協力し合って、大変さや楽しさを味わってほしい」とあいさつしました。東組合長は「これからも交流を深め、地域の農畜産物を食べてもらい、農業のことも知ってもらえたらうれしい」と話しました。秋には稲刈り体験と収穫感謝祭を予定しています。